

T細胞リンパ腫に対する同種造血幹細胞移植後の  
ブレンツキシマブベトチンの有効性と安全性の評価

## 1. 観察研究について

九州大学病院では、最適な治療を患者さんに提供するために、病気の特徴を研究し、診断法、治療法の改善に努めています。患者さんの生活習慣や検査結果、疾病への治療の効果などの情報を集め、これを詳しく調べて医療の改善につながる新たな知見を発見する研究を「観察研究」といいます。その一つとして、九州大学病院血液・腫瘍・心血管内科では、現在 T 細胞リンパ腫に対して同種造血幹細胞移植を受けられた患者さんのうち、移植後にブレンツキシマブベトチンを投与された患者さんを対象として、同種造血幹細胞移植後のブレンツキシマブベトチンの有効性と安全性の評価に関する「観察研究」を行っています。

今回の研究の実施にあたっては、九州大学医系地区部局観察研究倫理審査委員会の審査を経て、研究機関の長より許可を受けています。この研究が許可されている期間は、2028年3月1日までです。

## 2. 研究の目的や意義について

T 細胞リンパ腫は化学療法後の再発率が約 50%と高い難治性の疾患です。T 細胞リンパ腫が化学療法後に再発した場合は、治療法の一つとして同種造血幹細胞移植が選択されることがあります。しかしながら移植治療そのものの合併症による死亡率も 20-30%と高く、また移植後の再発率も約 50%と非常に治療困難な疾患です。そのため、移植後再発 T リンパ腫に対する有効かつ安全な治療法の開発が望まれています。

ブレンツキシマブベトチンは腫瘍細胞の表面に出ている CD30 というタンパクを認識して結合し、腫瘍細胞特異的に抗がん剤を取り込ませる「分子標的薬」と言われる薬剤で、近年 T 細胞リンパ腫の一部に使用可能となりその有効性が明らかとなっています。本薬剤は従来のあらゆる細胞を標的とってしまう抗がん剤とは異なり、腫瘍細胞のみを標的とする薬剤であるため、その副作用も比較的少ないことが知られています。

非常に治療が困難な移植後再発 T 細胞リンパ腫の患者さんにもブレンツキシマブベトチンは使用されますが、移植後患者さんへのブレンツキシマブベトチン投与に関する有効性や安全性のまとまった報告はありません。

そこで本研究では九州大学病院血液・腫瘍・心血管内科において移植後再発 T 細胞リンパ腫に対して 2014 年 1 月 1 日から 2022 年 12 月 31 日の間にブレンツキシマブベトチン投与された患者さん方の経過をカルテなどから遡って調査することで、移植後患者さんへの本薬剤投与の有効性と安全性を明らかにしようと考えています。さらに、患者さんの性別や年齢、ご病気、治療内容、血液検査結果、画像検査等のデータと本薬剤の有効例および安全性の関連性についても比較検討したいと考えています。

本研究をおこなうことで、移植後再発 T 細胞リンパ腫という非常に難しい疾患、そして患者さんの状況下でブレンツキシマブベトチンの有用性と安全性が明らかとなり、今後のより有効で安全な治療法の開発に結びつくことが期待されます。

### 3. 研究の対象者について

・九州大学病院 血液・腫瘍・心血管内科において T 細胞リンパ腫に対して同種造血幹細胞移植をおこなった方のうち、移植後にリンパ腫が再発したために 2014 年 1 月 1 日から 2022 年 12 月 31 日までにブレンツキシマブベトチンによる治療を受けられた方（15 名）を対象にします。

研究の対象者となることを希望されない方又は研究対象者のご家族等の代理人の方は、事務局までご連絡ください。

### 4. 研究の方法について

この研究を行う際は、カルテより以下の情報を取得し、同種造血幹細胞移植後のブレンツキシマブベトチン使用がリンパ腫に対して有効か、そして安全に使用できるのかを明らかにします。

[取得する情報]

年齢、性別、身長、体重、基礎疾患、過去の化学療法、移植概要、感染症の有無、移植片対宿主病の有無、再発の有無、ブレンツキシマブベトチン投与量およびスケジュール、治療効果(CT および病理所見)、転帰

### 5. 個人情報の取扱いについて

研究対象者の血液検査結果、画像検査結果、カルテの情報をこの研究に使用する際には、研究対象者のお名前の代わりに研究用の番号を付けて取り扱います。研究対象者と研究用の番号を結びつける対応表のファイルにはパスワードを設定し、九州大学病院 血液・腫瘍・心血管内科内のインターネットに接続できないパソコンに保存します。このパソコンが設置されている部屋は、同分野の職員によって入室が管理されており、第三者が立ち入ることはできません。

また、この研究の成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、研究対象者が特定できる情報を使用することはありません。

この研究によって取得した情報は、九州大学病院 血液・腫瘍・心血管内科・科長・赤司 浩一の責任の下、厳重な管理を行います。

ご本人等からの求めに応じて、保有する個人情報を開示します。情報の開示を希望される方は、ご連絡ください。

### 6. 試料や情報の保管等について

[情報について]

この研究において得られた研究対象者のカルテの情報等は原則としてこの研究のために使用し、研究終了後は、九州大学病院 血液・腫瘍・心血管内科において同科 科長・赤司 浩一の責任の下、10 年間保存した後、研究用の番号等を消去し、廃棄します。

また、この研究で得られた研究対象者の情報は、将来計画・実施される別の医学研究にとっても大変貴重なものとなる可能性があります。そこで、前述の期間を超えて保管し、将来新たに計画・実施される医学研究にも使用させていただきたいと考えています。その研究を行う場合には、改めてその研究計画を倫理審査委員会において審査し、承認された後に行います。

## 7. 利益相反について

九州大学では、よりよい医療を社会に提供するために積極的に臨床研究を推進しています。そのため資金は公的資金以外に、企業や財団からの寄付や契約でまかなわれることもあります。医学研究の発展のために企業等との連携は必要不可欠なものとなっており、国や大学も健全な産学連携を推奨しています。

一方で、産学連携を進めた場合、患者さんの利益と研究者や企業等の利益が相反（利益相反）しているのではないかとという疑問が生じる事があります。そのような問題に対して九州大学では「九州大学利益相反マネジメント要項」及び「医系地区部局における臨床研究に係る利益相反マネジメント要項」を定めています。本研究はこれらの要項に基づいて実施されます。

本研究に関する必要な経費は部局運営費であり、研究遂行にあたって特別な利益相反状態にはありません。

利益相反についてもっと詳しくお知りになりたい方は、下記の窓口へお問い合わせください。

利益相反マネジメント委員会

(窓口：九州大学病院 ARO 次世代医療センター 電話：092-642-5082)

## 8. 研究に関する情報の開示について

この研究に参加して下さった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の研究計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことができます。資料の閲覧を希望される方は、ご連絡ください。

## 9. 研究の実施体制について

この研究は以下の体制で実施します。

研究実施場所	九州大学病院 血液・腫瘍・心血管内科 九州大学病院 先端分子・細胞治療科
研究責任者	九州大学病院 先端分子・細胞治療科・助教 島 隆宏
研究分担者	九州大学病院 血液・腫瘍・心血管内科 助教 山内 拓司 九州大学病院 血液・腫瘍・心血管内科 助教 森 康雄

## 10. 相談窓口について

この研究に関してご質問や相談等ある場合は、下記担当者までご連絡ください。

事務局 担当者：九州大学病院 先端分子・細胞治療科・助教 島 隆宏  
(相談窓口) 連絡先：[TEL] 092-642-5230 (血液研究室)  
[FAX] 092-642-5247  
メールアドレス：shima.takahiro.993@m.kyushu-u.ac.jp

